

第5回SGRAチャイナ・フォーラム in フフホト  
パネルディスカッション

中国の環境問題と日中民間協力  
～ 地下資源開発を中心に～

日時：2010年9月13日（月）午後3時～6時

会場：内モンゴル大学学術会議センター

主催： 渥美国際交流奨学財団関口グローバル研究会（SGRA）

協力： 緑の地球ネットワーク（GEN）  
内モンゴル大学モンゴル学研究センター

助成： 国際交流基金北京日本文化センター

#### フォーラムの趣旨

日中同時通訳付き。SGRAチャイナ・フォーラムは、日本の民間人による公益活動を、北京をはじめとする中国各地の大学等で紹介するフォーラムを毎年開催しています。5回目の今回は、NPO法人緑の地球ネットワークの高見邦雄事務局長に再度お願いし、山西省大同における植林活動を通して見えてきた中国の環境問題について考えます。

フフホトフォーラムでは、日本から高見事務局長と滋賀県立大学のブレンサイン准教授を迎え、山西省と内モンゴルに共通する「地下資源開発」について、そして内モンゴルの環境問題とその解決のための日中民間協力の可能性について検討します。石炭をはじめ地下資源で一步先に走ってきた山西省ではどんな問題が起きているのか、地下資源枯渇を防ぐためにどのような対策が考えられるか、環境問題を克服した日本の経験に学べることはあるのか等について、パネルディスカッション形式で検討します。

#### パネルディスカッション

司会進行：ネメフジャルガル（内モンゴル大学モンゴル学研究センター研究員）

パネリスト：

高見邦雄（緑の地球ネットワーク事務局長）

ブレンサイン（滋賀県立大学人間文化学部准教授）

オンドロナ（内モンゴル大学民族学社会学学院副教授）

## パネリスト略歴

### 高見邦雄（たかみ・くにお）TAKAMI, Kunio

認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク事務局長

1948 年鳥取県の農家に生まれる。東京大学中退。日中民間交流に従事したあと、1992 年緑の地球ネットワークの設立に参加し、大同プロジェクトを担当。1994 年から事務局長。毎年 100～120 日、大同に滞在している。友誼賞（2001 年、中国政府）、大同市荣誉市民（2006 年、大同市政府）など受賞。中文の著書に『雁棲塞北～来自黄土高原的報告』（李建華・王黎傑訳、国際文化出版公司、2005 年）がある。緑の地球ネットワークは 1992 年以来、山西省大同市の農村で緑化協力を継続している。大同市は北京の西 300km ほどのところにあり、北京の水源、風砂の吹き出し口でもある。そこで深刻な沙漠化と水危機が進行している。「ゼロからの出発」とよくいうが、歴史問題をかかえた大同ではマイナスからのスタートだった。初期は失敗つづきだったが、その後、日本側の専門家や中国のベテラン技術者の参加をえて、だんだんと軌道に乗ってきた。協力の双方も失敗と苦労を通じ、お互いを理解し、信頼しあうようになってきた。いまでは「国際協力の貴重な成功例」とまで評価されるようになっている。

### ブレンサイン Burensain

滋賀県立大学人間文化学部准教授

1984 年内モンゴル大学文学部卒業；1984 年～1992 年内モンゴルラジオ放送局記；1996 年早稲田大学大学院文学研究科より修士号、2001 年博士号取得；日本学術振興会外国人特別研究員を経て、2006 年より現職。S G R A 会員。

### オンドロナ

内モンゴル大学民族学社会学学院副教授

1970 年生まれ、2006 年島根大学から社会学博士学位取得、著書「多民族混住地域における民族意識の再創造」溪水社 2007 年。

### SGRAとは

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化にたちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。